



・発行者  
・京都障害者  
・スポーツ  
・振興会

題字 芝田 徳造

### つどい500実行委員

### 岩谷礼子さんにインタビュー

### メッセージ・トレインはたくさんつながりました

つどいのボランティアになつて

知人からスポーツのつどいを紹介されボランティアを始め20年近くたちます。参加し始めた頃はこんなにも長く続けられるとは思いませんでした。参加者の笑顔を見ていると続けて参加しています。記念大会の準備は300回大会から行い、最初は言われるままに手伝っていました。少しずつ自分でアイデアを出したり、みんなで相談しながら準備を行っています。

### メッセージ・トレイン

アイディアは府立体育館がリフレッシュ工事の際に、サン・アビリティイ

ズ城陽のスポーツのつどいを見学に行った時、体育室の周囲やロビーなどにたくさん作品が展示してありました。毎月つどいで参加者全員でひとつのものを作ろうということ

で絵を描いたり、メッセージを書いたりしてそれが展示してあります。その説明を聞き、府立体育館のつどいでも参加者とスタッフと一緒にひとつのものができないだろうかと思いをしました。

台紙に汽車の絵を描き、その後ろにみんなから書いてもらったメッセージを貼りました。

メッセージは「つどい500おめでとう」というものが多かったです。大学生の時にボランティアをし、卒業後実家に戻って施設

職員をしている人にメッセージカードを書いて送り返してもらいました。「仕事でつどい500には参加できず残念です。ボランティアで充実した学生時代を過ごすことができました」と書いてありました。他にはメッセージと共に折り紙で鶴を折られた方、絵もメッセージと一緒に貼ってもらった人など、沢山の人が書いて頂き、200名近くの人のからメッセージを書いてもらい貼ることができました。

### スタツフTシャツ

スタツフに一体感を持つてもらおう為に、Tシャツも作り直しました。生地の色はボスターでも使っている黄色、文字の色は緑と決めていました。プリントをお願いしたリンデン作業所の杉本所長と相談しながら準備しました。スタツフに長く着てもらえるように

つどい500の字を左の袖口。絵をシャツの前面の左側にプリントしました。仕上がりは想像したものよりも鮮やかで、女性からは可愛いと評判は良かったですが、男性からは？の反応でした。これから長く

着用したいと思えます。できあがるまで幾度も作業所に行き打ち合わせしましたが、その時間はとても楽しかったです。

### 会場の装飾

前回の450回は装飾に多くの時間と手間をかけた。今回はできるだけ簡素な装飾にしようというこころで準備しました。450回が終わった時に使えるものは、再利用するため段ボール箱に入れて保管しておきました。折り紙で作ったチェーンモジュールは再利用しました。新しく作ったものも多くあり、スタツフが家に持ち帰り沢山作ってもらいました。スタツフだけでなく家族にも手伝ってもらいました。私の家族もスタンプラリーの準備を手伝ってくれました。

(裏面へ続く)



行事予定	8月	23(日)	第35回全京都障害者総合スポーツ大会 水泳大会 城陽障害者スポーツのつどい	京都市障害者スポーツセンター サン・アビリティーズ城陽	来月のつどいは
		6(日)	第31回全京都車いす駅伝競走大会 第25回ミニ駅伝競走大会	丹波自然運動公園・周辺道路	
	9月	8(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	9 / 13
		13(日)	第35回全京都障害者総合スポーツ大会陸上競技大会	京都市西京極陸上競技場	
	京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX 075-712-7010
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2015年6月7日に一部更新)					

(表面より)

つどい500を終わって

いつものつどいに参加されているスタッフ、以前にスタッフだった人も沢山の手に手伝ってもらいました。また、京都産業大学付属高校のボランティア部の高校生や、立命館大学の学生もたくさん参加してもらいました。今後、その中からボランティアになってくれる人が出てくればうれしいです。

工夫が必要だなと思うのは、地域の人にも多く参加してもらおうようにと考えていましたが、実際に参加された人は少なかつたようです。地域の体振などへのPRなどもっと工夫する余地はあったと思います。

スタッフは毎回自分の担当するコーナーから離れられず、他のコーナーを見るのが難しく、記念大会の全体像を見ることができないのが残念に思いますが、スタッフとしては仕方がないのかなと思います。

☆☆☆☆

### 障害者スポーツのつどい経過

昭和46年10月10日  
京都府立体育館開館

運営の基本方針として、対象別のスポーツ振興事業(心身障害者を含む)を実施することが決定

11月29日  
全京都心身障害者スポーツ振興連絡協議会設立

福祉の観点から各種団体が独自のスポーツに係っていたのを、スポーツの分野について一つのテーブルについて振興への活動を展開することで13団体が結集

昭和47年2月13日

心身障害者(児)スポーツ教室開催要項決定

3月12日

第1回心身障害者スポーツ教室開催・参加者留69名・指導者21名

5月7日

心身障害者(児)スポーツのつどいに名称変更(第2回)

毎月第一日曜日開催を原則とし実施することを決定

昭和48年4月

年間計画に組み入れ、定期開催決定・事業として定着

昭和49年1月6日

年間計画の中で第1競技場使用を決定

昭和51年9月5日

第50回記念「大運動会」開催

昭和52年4月

心身障害者スポーツのつどいに改名

昭和55年3月2日

ハンディキャブ(リフト付きマイクロ)による送迎開始

11月2日

第100回記念「心身障害者スポーツのつどい」大運動会開催

11月3日

文部省社会体育優良団体表彰

12月7日

会報「つどい」発行(以降毎月発行)

昭和58年3月24日

芝田徳造 京都障害者スポーツ振興会会長 京都新聞社会福祉功労賞受賞

昭和60年3月3日

第150回記念「心身障害者スポーツのつどい」実施

昭和63年1月

芝田徳造京都障害者スポーツ振興会会長 関西スポーツ賞特別表彰

平成元年9月3日

第200回「心身障害者スポーツのつどい」実施

身障国体京都大会1周年として企画・記念イベントも開催

3月4日

「障害者スポーツのつどい」に名称変更

平成5年4月11日

開催日を第一日曜日から第二日曜日に変更

11月14日

第250回記念「つどい250」開催

平成8年12月9日

朝日新聞朝日スポーツ賞受賞

平成9年12月14日

第300回記念「つどい300」開催

平成14年4月14日

第350回記念「つどい350」開催

平成18年4月9日

第400回記念「つどい400」開催

平成22年7月11日

第450回記念「つどい450」開催

平成24年10月、25年5月

リニアル工事のためつどいは8ヶ月間中断

平成26年11月27日

「障害者スポーツのつどいスタッフ」京都新聞大賞福祉賞受賞

平成27年6月14日

第500回記念「つどい500」開催

